

前立腺がん診療、一貫して担う



別府湾腎泌尿器病院 病院長
佐藤 文憲氏

内科主体の旧病院を前身に、泌尿器科領域の低侵襲医療（身体への負担軽減に配慮した医療）に特化した病院として再出発し、今年、6周年の節目を迎える。「スタッフと力を合わせ、地道に症例を積み重ねてきた」と振り返る。

腹腔鏡下手術支援ロボットを使った前立腺がんの手術は、年々増加傾向にあり、直近1年間（2022年9月～23年10月）では124件、18年2月の開院から累計で500例を突破した。20年に開始した、腎がんに対するロボット支援腎部分切除術（腎機能を温存した低侵襲手術）も、直近1年間（22年9月～23年10月）では14件、20年からの累計で28例目となる。

病院DATA

- 診療科目
泌尿器科・内科・循環器内科・糖尿病内科・婦人科
リハビリテーション科・放射線科・麻酔科（局麻）
- 診療時間
平日／9:00～12:30、13:30～17:30
土曜／9:00～12:30
- 休診日
第5土曜、日曜、祝日、年末年始



患者に寄り添った治療方針を提案

一つという。「採血で前立腺がんをスクリーニング（ふるい分け）するPSA検査は、健康診断で受けられる（自由診療。検査費用は3千円程度。同じ建物内にある、大分健康管理協会が運営する大分総合健診センターで受診可能）。50歳以上の人はぜひ検討してほしい」と呼びかける。高齢化に伴い発症しやすいがんで、80～90代の患者も来院するため、放射線やホルモン療法なども選択肢に、体調や希望を勘案して治療方針を決めている。

尿管結石、前立腺肥大、女性の尿失禁、膀胱機能障害など、一般的な泌尿器科の疾患に苦しむ患者とも向き合う。「訴えを聞き、悩みを解決するために何ができるか、共に考える姿勢を大切にしている。地域に密着した内科医療と、がん診療を中心とした泌尿器科の診療という二つを強みとして融合させたい。排尿に困っている地域の患者さんのケアも担っていく」

6周年を前に、「スタッフが支えてくれていておかげ」と感謝。今年もスタッフと心を合わせ、病院の使命を果たしていく。

